

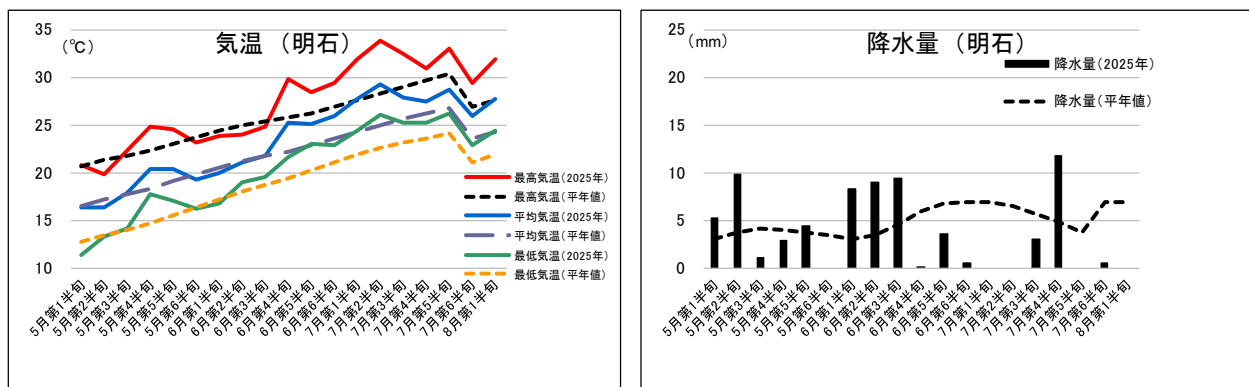
令和7年度 東播磨地域稲作気象台情報 第2号

発行：令和7年8月7日
NOSAIひょうご東播磨事務所

1. 気象状況（気象庁データ [明石]：5月1日～8月4日）

今年の近畿地方の梅雨明けは6月27日ごろで、平年よりは22日早く、昨年に比べて21日早くなりました。

気温は6月下旬以降、平年より高く推移しています。梅雨明け後の降水日数は3日でした。



4. 今後の栽培管理について

(1) 病害虫防除

*いもち病

葉色の濃い所や日当りの悪い所では「穂いもち」に進展することがあります。ヒノヒカリなどの普通期品種では、出穂前にいもち病が目立つことがありますので、観察しましょう。発生している場合は穂肥の減肥や無施肥などの対策を、特に多発している場合は出穂前に治療効果の高い薬剤で防除しましょう。



クモヘリカメムシ

*紋枯病

定点の1カ所で発病が見られたましたが、高温が続くと、紋枯病が拡がりやすくなります。前年に多発したほ場や、過繁茂のほ場は、注意しましょう。

*縞葉枯病・ヒメトビウンカ

「出すくみ症状」や「ゆうれい症状」の株を見つけたら、株ごと抜き取り、ほ場の外に持ち出して処分しましょう。発生を確認したほ場は、出穂前に防除を実施し、ヒメトビウンカの密度を抑えましょう。



アカスジカメムシ

*ウンカ・ヨコバイ類

今回の調査では、トビイロウンカの発生は確認されませんでした。しかし、梅雨前線と共に飛来している可能性があります。成熟期の遅い品種では、トビイロウンカの発生・増殖により、「坪枯れ」に発展する可能性があります。出穂前の基幹防除は必ず実施しましょう。



オオトゲシラホシカメムシ

*斑点米カメムシ類

県病害虫防除所 病害虫発生予察注意報第1号発表（令和7年7月17日）

県下で多発生が確認され、定点畦畔でも確認されています。「斑点米」の原因になりますので、出穂後の薬剤防除を徹底しましょう。雑草が繁茂している場所で繁殖しますので、休耕田や池の堤等の草刈りで、生息地を減らしましょう。ただし、出穂期の畦畔の草刈りは、かえって水田に虫を追い込むことになりますので、出穂2週間前までに草刈りを終えましょう。また、穂揃期頃に防除を実施しましょう。



ホソハリカメムシ

(2) 水管理・施肥管理

<キヌヒカリ・コシヒカリ・あきたこまち>

早期品種は出穂期を迎えています。出穂時は湛水状態にし、出穂後は間断灌水（田面にためた水がなくなったら水を入れる、を繰り返す）に切り替え、根を健全に保ちましょう。



アカヒゲホソミドリカメムシ

<ヒノヒカリ>

中干しが終わったら、いきなり湛水状態にせずに、根を徐々に湛水に馴らし、丈夫で活力のある根を育てましょう。穂肥は、出穂期予測及び葉色・葉鞘のヨード反応などの生育診断に基づき、適期適量を心掛けましょう。（穂肥施用の適期：出穂20日前、幼穂長2mm程度）

◎熱中症や農作業事故から命を守るため、草刈りや施肥などは、できるだけ日中の気温の高い時間帯を避け、こまめな水分補給・休憩を取りながら、無理なく作業しましょう。

◎1人で農作業に出かける場合は、万が一に備えて、家族に行先や帰宅時間を告げておくとともに、携帯電話を必ず持参しましょう。

※兵庫県農業気象技術情報サイトへのアクセス方法

兵庫県ホームページトップ画面より、情報を探すから「農業気象技術情報」で検索して下さい。

(http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000097.html)



◎次回、稲作気象台情報第3号の発表は9月上旬です。【9月3日（水）調査予定】

発 行	: NOSAIひょうご東播磨事務所
実 施 主 体	: 東播磨水稲病害虫発生調査協議会
関 係 機 関	: 明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町、JAあかし、JA兵庫南、JA加古川南、JA全農兵庫、加古川農業改良普及センター、NOSAIひょうご東播磨事務所
問 合 せ 先	: NOSAIひょうご東播磨事務所 電話 (079) 424-1390 JAあかし 本店 経済課 電話 (078) 934-5800